

University of Shizuoka Magazine

◆ 静岡県立大学広報誌

# は|ば|た|き

No.139  
2019. July

特集 1  
経営情報学部  
観光マネジメント教育開始!!

特集 2  
大学COC事業の総括と今後

キャンパストピックス  
第3期中期計画がスタート  
2018年度 国家資格試験合格者状況

## CONTENTS

- p01 経営情報学部 観光マネジメント教育開始
- p05 大学COC事業の総括と今後
- p07 CAMPUS TOPICS
  - ・2019年度入学式
  - ・2019年度開学記念行事
  - ・THE世界大学ランキング日本版2019
  - ・「国際交流センター」が始動
  - ・2018年度ホスピタル・ブレイ・スペシャリスト(HPS)養成事業報告
  - ・内西いよ子基金を設置
  - ・近藤記念静薬学友会寄附講座開所式を開催
  - ・石川准 国際関係学部教授が国連障害者権利委員会副委員長に就任
  - ・本庶佑顧問のノーベル生理学・医学賞受賞祝賀会を開催
  - ・就職内定率 昨年より高い99.3%を達成
  - ・2018年度 国家資格試験合格者状況
  - ・経営情報学部の学生が地域課題解決に向けた活動成果を報告
  - ・本学×韓国忠清南道・公州大学校コラボ弁当
  - ・浙江大学中国語研修プログラム：現地で働く本学卒業生との懇談会を開催
  - ・静岡県公立大学法人 第3期中期計画が4月にスタート
  - ・「世界お茶まつり2019 春の祭典」見学ツアーを実施
- p15 研究室訪問
  - ・食品栄養科学部 食品工学研究室 下山田真教授
  - ・食品栄養科学部 環境工学研究室 原清敬准教授
- p19 活躍する卒業生
  - ・経営情報学部／経営情報イノベーション研究科
- p20 産学民官連携
- p21 図書館だより
  - ・多読の薦め、多読で「英語脳」をつくる  
／私の一冊の本
- p22 Information
  - ・教員・学生の受賞
  - ・教員人事



練習に励むジャズダンス部の学生たち

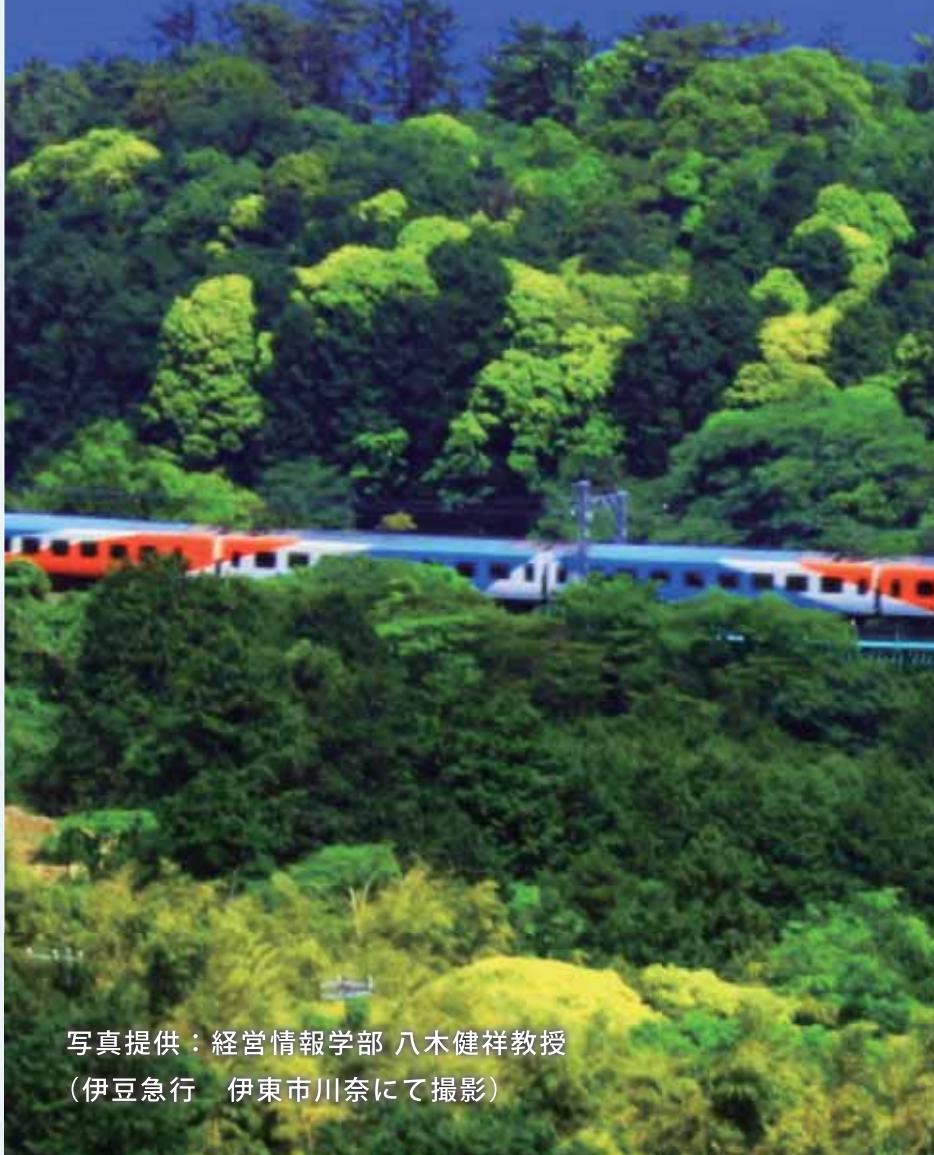
# 経営情報学部

# 観光マネジメント

経営情報学部では2019年度入学生から、これまでの「経営」「総合政策」「情報\*」の専門分野に、「観光マネジメント」が加わったメジャー制を導入する新たなカリキュラムが始まりました。4分野の融合と高度な専門性により、社会においてイノベーションの一翼を担うことができる学際性を兼ね備えた人材の育成を目指します。

本号では、「観光マネジメント」教育開始の意図や、担当教員や授業の内容等を紹介します。

\*メジャー制では、「データサイエンス」となります。



写真提供：経営情報学部 八木健祥教授

(伊豆急行 伊東市川奈にて撮影)

# メント教育開始！！

## —メジャー制について—

知識社会におけるリーダーを育成するために、文理の垣根を越えたメジャー制による多彩な学びを可能とします。

1年次に「経営」「総合政策」「情報」「数理」「英語」の学部基礎科目を幅広く学び、自らの視野を広げます。その上で、学生自身がどの分野のメジャー認定を目指すかを選択します。複数を組み合わせることにより、自分だけのオリジナルの学びを作ることができます。自身の目指すメジャー以外の分野の科目も自由に履修ができ、卒業時の単位の修得状況に応じて、1つまたは複数のメジャーが認定されます。

### 経営メジャー

経営学 会計学

商学 マーケティング

### 総合政策メジャー

経済学 公共・行政

社会保障 地域・都市

### データサイエンスメジャー

情報学 統計学

fx 数理科学 人工知能

### 観光マネジメントメジャー

観光産業 国際観光

観光政策 観光情報



# なぜ？今観光マネジメント教育を始めるのか――

人口減少や少子高齢化、グローバル化などにより社会構造の変化が進んでいます。人口の東京一極集中による地方との格差が広がるなか、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会の創生に取り組んでいます。また、訪日外国人旅行者数は2018年に初めて3千万人を突破し、観光は我が国経済を支える産業へと成長しつつあります。

静岡県でも、観光が果たす役割の重要性は高まっており、国内外の観光交流の拡大に向け、地域資源を最大限に活用した観光地域づくりやそれを担う人材の育成等が求められています。

そのような地域からの要請等に応えるべく、本学では観光教育に関する検討を3年前に始め、経営情報学部における「観光マネジメント」教育の開始に至りました。

「経営」「総合政策」「データサイエンス」を基礎とするマネジメント能力を身に付けた上で、地域振興に貢献する「観光マネジメント」を学ぶこととなり、地域観光の中核を担う人材や、観光地全体の地域力を高める地域経営を担う人材等を育成します。



出典：日本政府観光局(JNTO)  
静岡県文化・観光部観光政策課

## ■ 観光マネジメントの授業紹介

観光ビジネス論、観光産業論、観光政策論、観光情報論、観光交通論、ホスピタリティマネジメント論など、観光分野を幅広く学びます。また、講義だけでなく実際の観光地へも足を運び、観光産業の視察やゼミ合宿なども行います。

### 「観光政策論」

経営情報学部 八木健祥 教授

「観光政策論」では、わが国および静岡県の観光の現状について、種々の観光データを用いて多面的にわかりやすく分析し、そこから得られる知見を学生と一緒に考えています。あわせて、今後の観光面の課題をグループディスカッションとプレゼン発表会を通じて洗い出し、学生からの提言をもとに静岡県庁をはじめ関係機関と意見交換を行い、政策策定の参考としていただいております。また「基礎演習」では、静岡県内の観光地の再評価を学生目線で行い、若年層の集客に向けた対応策を検討しています。



### 「観光マネジメント」

経営情報学部 カウクルアムアン アムナー KHAOKHREUAMUANG Amnaj 准教授

ホスピタリティやトラベル・ビジネスをはじめとする、観光マネジメントは観光企業の経営のみならず、観光地や地域を示すデスティネーション(Destination)の創造も重要な課題になっています。本講義では、「観光ビジネスの経営」と「地域創造のための観光マネジメント」の2部に分かれます。観光ビジネスや地域における観光発展について理解を深めることを目的とします。アクティブラーニング(Active learning)に基づいて、授業では学生がグループワークによる観光地域づくりについてプレゼンテーションを行います。



## ■観光マネジメント教育担当教員からのメッセージ



### 日本の将来を支える観光産業

経営情報学部 北上真一 特任教授

本学でも今年から「観光マネジメント」の教育が始まりました。世界では、GDPの平均10%程度を観光産業が占めていますが、日本は5%を少し超えた程度です。質の高い観光客を数多く呼び込み、満足してもらい、リピーターとして何度もやってきてもらうことが重要です。実際のビジネスに関わってきた経験を元に、経営や政策、最新のICTをも理解し、イノベーションを起こせる観光人財の育成に少しでもお役に立てればと考えています。

### 「観光」に関わる 地域連携の展開

「卓越した教育と高い学術性を備えた研究による成果を地域に還元」することは本学の目標の一つであり、今回の観光マネジメント教育に寄せる期待も高まっています。



### 賀茂地域1市5町と 相互連携を締結

2018年12月18日には下田市内で、本学および静岡大学、静岡文化芸術大学の3大学と、賀茂地域1市5町（下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町）との間で相互連携に関する協定を結ぶ締結式が行われました。今回の締結により、観光を含めた地域振興や人材育成などを中心に、幅広い分野で連携を進めていくこととしています。

締結式に臨んだ鬼頭宏学長は「経営情報学部の観光マネジメント関係のことから連携を開始し、その後連携の範囲を拡大し、賀茂地域との関係を太くしていく」と抱負を述べました。

### 「楽しい」を科学する

経営情報学部 大久保あかね 教授

観光学は、「観光」という社会的行動を通して地域の社会的、経済的な課題を解決する学際的な学問です。…というと難しく聞こえますが、観光の動機は「楽しい」であり、その要因を解明することで、地域を明るくする学問です。大学での観光教育は、理論から応用、実践まで学ぶものです。その中でも、観光の現場で地域の人々と関わり、ともに考える経験を積むことが、飛躍的な成長につながります。皆さんと一緒に学べるのが楽しみです。

### 観光教育スタートアップイベント

in県大



4月から、静岡文化芸術大学(以下、文芸大)でも文明観光学という新たな観光教育がスタートしたことにより、両学の観光教育の学びの意義や内容について両学長等が説明するスタートアップイベントを学生および一般聴講者を集めて6月に開催しました。鬼頭宏学長は「人口減少社会において交流人口を増やす観光振興は県の総合計画でも一翼を担うが、経済効果を求めるだけでなく、住民が地域への愛着や誇りを高め、持続可能な社会の実現に結びつく観光でなければならない」と、横

山俊夫文芸大学長は「訪れる人と迎える人が会うことにより、互いの文明化に持続的に資する迎え方が必要である」と述べ、今後、両学での学びが補い合い、出会いにつながっていく可能性に期待の声もあがりました。

また、本学北上真一特任教授からは、日本の観光産業の現在地や今後の可能性について、文芸大青木健教授からは交流により生まれる新たな文明についての話があり、両学の学びの違いを知ることができる機会となりました。

### 一本学に期待すること

静岡県立大学において、新たに、経営情報学部観光マネジメント教育が開始されましたこと、誠におめでとうございます。

我が国の産業構造は、製造業を中心としたピラミッド型のサプライチェーンの構造から、大きな転換期を迎えております。このような中、国内外から交流人口の拡大をもたらす観光分野は、地域産業の活性化や雇用創出などの経済的効果に加え、異なる価値観の尊重や国際的な相互理解の促進、地域への愛着や誇りの醸成など、多岐に渡り大きな期待が寄せられております。

このような社会状況において、貴大学に観光マネジメント教育がスタートすることは、まさに時宜を得たものであります。

学生の皆様におかれましては、データサイエンスなどの基礎的学力を身につけた上で、観光の専門性やマーケティングを学ばれることにより、今後、社会や産業構造の急速で複雑な変化にも迅速かつ的確に対応し、観光産業を通じて本県の持続的な発展に寄与されることを期待いたしております。



静岡県文化・観光部長  
植田 基靖氏

# 『ふじのくに「からだ・こころ・地域」の健康を担う人材育成拠点』5年間のあゆみ ～「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」の総括と今後～



平成26年度採択 文部科学省「地(知)の拠点整備事業」

## ■導入

2014年度に、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC:Center of Community事業)」として開始した本学のプログラム『ふじのくに「からだ・こころ・地域」の健

康を担う人材育成拠点』が、2018年度をもって5年の実施期間を終えました。

今号では、その成果と今後の展開について紹介します。

## ■事業の概要

COC事業は自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学等を文部科学省が支援する事業です。本学では静岡県、静岡市、牧之原市と連携し、地域ぐるみで課題に取り組むため、学内に地域と大学の橋渡しを担う事業統括機関『ふじのくに』みらい共育センターを新設し、連携する静岡市と牧之原市には、自治体との共同運営で「みらい交流サテライト」を設置しました。地域志向の取り組みの中核は、地域と一緒にになって行う

次世代を担う若者の育成です。地域の課題を解決するために、世代・分野・職種を超えて“チームとしての活動”を牽引する「コミュニティ・ワーク力」を持った人材の育成を目指し、学生は「しづおか学」科目群を通して静岡の歴史、文化、産業等を学び、フィールドワークを行います。サテライトにおいては、ワークショップを定期的に開催するなど、学生と地域住民が協働して、健康づくりとともに地域のみらいづくりを行う拠点を形成しました。



写真提供：経営情報学部 八木健祥教授

シンポジウム	センター事業	サテライト
2016年1月29日 	2016年9月27日 	2016年10月15日 
マリ・クリスティース氏(異文化コミュニケーション・元国連ハビタット親善大使)による基調講演や「地域の健康を『幸福度』から考える」をテーマにしたパネルディスカッションを行いました。	地域社会および産業を持続・発展させる方策を学生の視点を取り入れながら探求するため、工場見学ツアーを開催し、先端技術を持つ静岡県内企業の理解を深めました。	看護学部の学生が静岡市駿河生涯学習センターと協働し、健康講座を開催しました。
2018年2月17日 	2017年12月23日 	2018年8月30日 
山田立氏(玉川堂番頭)による、「地域の『知』の伝承と創造」をテーマにした基調講演と、本学教員による地域の産業・観光や文化などに関する5つの分科会を行いました。	外国にルーツを持つ子どもたちの学習支援として「しゅくだいひろば」を開催し、学生が書道の指導を行いました。	上:静岡市地域福祉共生センター「みなくる」で「共生のまちづくり」に対する意識調査に向けて地域住民との意見交換会を開催しました。 下:牧之原市地域振興課と協働し「キラリ☆お話カフェ」を開催しました。
 	 	 

# 2018年度 大学・地域共創シンポジウム ～地域における人材育成、学術、健康のさらなる拠点をめざして～

2019年1月26日、COC事業の5年間の成果を学生・教員、連携自治体が発表する大学・地域共創シンポジウムを大講堂で開催し、基調講演では、静岡県富士山世界遺産センター館長で、元文部科学大臣の遠山敦子氏から、「大学が果たすべき地域貢献」と題し、お話しいただきました。

遠山氏からは、大学の成り立ちや発展の歴史から、御自身が文部科学大臣として関わられた国立大学の法人化という大学改革の背景などが語られました。この改革により、大学自らが進む方向を自主的、自律的に考え、運営していくこととなり、弾力的な人事システムの導入や産学連携の推進に繋がり、各地域の意向

を受けて発展してきた公立大学でも、地域貢献が教育・研究とともに重要な大学の使命として位置付けられているとの話がありました。また、文部科学省のCOC事業の目的としては、地域再生活性化の核となる大学を形成することにあり、静岡県立大学が実施した事業は、コミュニティ・ワークなどを築く仕掛けになっていること、自治体との協力関係がしっかりとれていることなどが評価されていて、今後の事業の継続により、地域貢献を確実にすることが大事であると述べられました。最後には、挑戦する勇気、創造する勇気を持ち、自分の未来、そしてこの国の未来をよくするために、一步一

歩前進していただきたいという学生への熱いメッセージで締められました。



## コミュニティフェロー 特別表彰授賞式

### 【コミュニティフェロー制度】

2017年度に地域住民とともに「チーム活動」を牽引する「コミュニティ・ワーク力」を備えた人財の育成を推進するため、「静岡県立大学コミュニティフェロー」の称号を授与する制度を創設しました。2018年度は132名に授与し、うち10名を特別表彰しました。



受賞分野	受賞者名	所属	学年(※)	活動内容
COC事業活動からの表彰	薮田 亜沙美	薬学部	6年	一次救命処置教育システムの確立における地域貢献活動
	源平 麻衣	薬学部	6年	禁煙外来で自ら率先して支援し、受診者を禁煙の成功に導いた活動
	村田 謙行	薬学部	6年	健康度測定会の開催による地域住民への健康長寿啓発活動
	鈴木 杏奈	食品栄養科学部	4年	(一社)日本医食促進協会が認定する「メディシェフ」の「メディシェフアンバサダー」としての活動ほか
	森 翔平	薬食生命科学総合学府 食品栄養科学専攻	修士2年	地域住民の食と健康に関する課題を解析し、健康増進に貢献した活動
研究室(ゼミ)活動からの表彰	小野 航汰	経営情報学部	4年	KOKULABO フューチャーセンターを年間33回開催するなど、学生主導の地域活性化活動
	鈴木 匠	経営情報学部	4年	「大学生によるお店コンサルティング」「アグリビジネスコンサルティング」など、地域との連携活動
サークル・ボランティア活動からの表彰	西田 真央	国際関係学部	4年	羽衣つたえ隊への参加と能「羽衣」の普及活動
	星野 真実	看護学部	4年	防災ボランティアクラブ防'zでの県内における防災活動
	重田 一樹	看護学部	4年	看護分野における国内外での積極的なボランティア活動

※学年は表彰(2019年3月末)時点

## ■成果と今後の展開

5年間の事業を経て、教員の地域貢献活動が活発化とともに、地域に出ていく学生も増加し、地域からの一定の評価を得ることができました。

4月からは、大学全体の文理融合研究を推進し、地域貢献活動と産学官連携活動を総合的に推進するために、「ふじのくに発イノベーション推進機構」を開設しました。産学官連携事業を推進してきた「産学官連携推進本部」とCOC事業を推進してきた「ふじのくに」みらい共育センターの2つを構成機関とし、近年増加している多様な地域の関係主体からの地域課題解決に向けた要請への対応窓口を一本化するとともに、学内での意思決定の迅速化を図り、地域づくりの中核となって貢献できるよう取り組みを推進します。

### 静岡県立大学 ふじのくに発イノベーション推進機構 (事務局:地域・産学連携推進室)

地域貢献・産学官連携推進会議

#### 産学官連携推進本部

産学官連携事業

#### 「ふじのくに」みらい共育センター(COCセンター)

地域貢献事業

《文理融合の研究・共育》 研究活動 共育活動 研修活動

連携

多様な地域主体

産業界

公的機関

公設試験  
研究機関

地方自治体

他大学

《イノベーション推進機構概略図》

## 2019年度入学式

4月9日、静岡市駿河区のグランシップで、学部・短期大学部・大学院の合同入学式を開催しました。学部生675人、短期大学部生138人、大学院生132人、計945人が希望を胸に新たなスタートを切りました。



式典の様子

鬼頭宏学長は「誇りと自信をもって『地域をつくる、未来をつくる』主人公として、大いに研鑽を積んでいただきたい」と式辞を述べました。

新入生を代表し、看護学部の澳本瑠夏さんが「新たな出会いを大切にし、勉学

はもちろん様々なことに挑戦していくことを抱負を語りました。

入学式に続き、チアダンス部、アカペラサークル、ジャズダンス部によるクラブ・サークル紹介が行われ、在学生が新入生を歓迎しました。



誓いのことば

## 2019年度開学記念行事

今年で28回目となる開学記念行事を4月20日に開催しました。運動会、U Sフォーラム、懇親会の3部構成で、学生と教職員が交流を深めました。

第1部の「運動会」は、冒頭で鬼頭宏学長の挨拶と学生代表らの選手宣誓が始まり、天気に恵まれグラウンドでの開催になりました。参加者は、赤、青、緑、黄色の4グループに分かれて、障害物競走や玉入れなど熱い戦いが繰り広げられ、今年は青色チームが優勝しました。開学記念行事実行委員会委員長である小林公子学生部長(食品栄養科学部教授)が講評を行い閉幕となりました。



運動会

U S フォーラム発表

第2部の「U S フォーラム」は、草薙キャンパス看護学部棟13411講義室で開催しました。2018年度の学内研究に採択した全学部の研究成果(教員特別研究推進費等)と文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(C O C(Center of Community)事業)の報告会として、口頭発表20件、ハイライト口頭発表9件が行われました。

学生ホールで開催した第3部の「はばたきのつどい」には、多くの教職員と学生が参加しました。静岡女子短期大学と静岡女子大学の同窓会であるおおとり会の役員の方からソフトテニス部におおとり会賞が授与されました。また、第

1部の運動会の表彰やチアダンス部(GOLD ROWDIES)、ジャズダンス部、山本夏夢さん(国際関係学部)の一輪車のアトラクションも披露され、大いに盛り上りました。



おおとり会賞の表彰

なお、今年度の参加者数は、次のとおりでした。

区分	参加者数(人)
第1部 運動会	144
第2部 U S フォーラム	203
第3部 はばたきのつどい	252
延べ人数	599

\*第3部の参加者数は、参加券の販売枚数等による。

## THE世界大学ランキング日本版2019

昨年に続いて2回目のエントリーとなる「THE(Times Higher Education)世界大学ランキング日本版2019」において、本学は総合ランキングで71位タイにランクインし、昨年の88位から大幅に順位を上げました。公立大学の中では11位タイ(昨年13位)、東海4県の大学の中では7位タイ(昨年8位)の順位でした。

本学の地域に根ざしたきめ細かな教育及び研究が学内外から評価されるとともに、教育リソースや教育成果の向上が総合順位の引き上げにつながりました。この成果を踏まえ、本学は今後も「地域をつくる、未来をつくる」ために、教育及び研究両面の充実に取り組んでいきます。



THE世界大学ランキング  
日本版2019公式HP

## 「国際交流センター」が始動

国際交流業務を一括して体系的・総合的に行い、本学のグローバル化を促進する組織として、「国際交流センター」を4月1日より新たに設置しました。

本センターでは、大学間交流協定、交換留学、留学生に関する奨学金や生活相談、オンライン国際協働学習(COIL)を

活用した大学間交流などの業務を担当します。

センター始動に伴い、奥村昭博副学長兼国際交流センター長からは「これからこの本学のグローバリゼーションは、我がセンターが推進します」との力強い言葉がありました。



国際交流センターの職員と対話する留学生

## 2018年度ホスピタル・プレイ・スペシャリスト(HPS)養成事業報告

HPSは英国で誕生した病児や障害児が治療で感じる苦痛やストレス、不安を軽減するために「遊びの力」を用いて支援する専門職です。本学では日本で唯一HPS養成教育を実施し、2018年度も講座を開講しました。

### ■HPS養成講座

2018年度HPS養成講座(10月～3月開講)は応募者23名のうち10名を、HPS養成週末講座(7月～6月開講)は応募者23名のうち9名を受講生として迎えました。両講座は短大部初ベンチャーであるNPO法人ホスピタル・プレイ協会に委託し開催されました。

両講座は前期と後期の2期制になっており、講座期間中にはプレイ・プログラムの計画と実施、小児療養環境改善への取組みなどを通じ、学びを深めました。英国からは上級HPSであるクレア・ハイディ氏を講師に迎え、専門的な実践に基づくHPSに必要な知識と技術を学びました。米国から来日のチャイルド・ライフ・スペシャリスト(CLS)のコートニー・モーランド氏ほか4名も講義に参加され

ました。



HPS養成講座

### ■HPS国際シンポジウム

1月26日に短期大学部において第11回HPS国際シンポジウムを開催しました。「夢を持って生きること」をテーマにDr.まあや氏の基調講演「子どもたち誰もが取り残されない社会を実現するために」をテーマに阪南中央病院の志水医師、つばさ静岡の佐野相談員、静岡県障害者就労研究会の瀬戸脇氏によるラウンドテーブル、HPSによる口頭・ポスター形式での臨床研究発表など多彩なプログラムを展開し、全国各地から163名が参加しました。

続く1月27日にはホスピタル・プレイ

協会主催のHPS第7回スキルアップ講座「3つのホスピタル・プレイー医療的なケアを必要とする子どもと家族が情緒的に安全で安心できる場所を作り出すためにー」を開催しました。この講座では、治療を受ける子どもと若者をエンパワメントする支援方法、重い病気や障害がある子どもへの支援、短大部がホスピタル・プレイ協会および株式会社ウッディジョーと共同開発した木製メディカルキットを用いて子どもたちの安心感を作り出す方法の3つのホスピタル・プレイを146名が学びました。2日間のイベントには福祉・医療・特別支援教育関係者をはじめ、小中学生や一般市民の参加もあり、これまで以上にホスピタル・プレイへの関心の高さが伺えました。



HPS国際シンポジウム

## 内西いよ子基金を設置

本学の前身である静岡女子薬学校出身の内西いよ子様の遺言により、多額の寄附をお受けする寄附金贈呈式を2月7日に行いました。また、3月には本寄附金をもとに「内西いよ子基金」を設置し、内

西様のご遺志である薬学部の学生の教育・研究に役立てることとしています。

今年度は、薬学系学生への奨学金の給付事業や学習環境の整備、学習備品・図書の充実などの事業を展開していきます。

す。

今後につきましても内西様のご遺志に沿うよう本基金を活用してまいります。



故内西いよ子様のご親族から寄附金の贈呈



寄附金贈呈式後に故内西いよ子様のご親族を囲んでの記念撮影

## 近藤記念静薬学友会寄附講座開所式を開催

4月13日、近藤記念静薬学友会寄附講座の開所式を、本学小講堂で盛大に執り行いました。

近藤記念静薬学友会寄附講座は、静岡

薬科大学15回生(1971年卒)の近藤隆様からのご寄附を基に立ちあげた講座です。当日は、寄附講座の開設を祝し、薬学部関係者および静薬卒業生が見守るな

か、近藤隆様、鬼頭宏学長、眞鍋敬薬学部長、横倉輝男静薬学友会会长、寄附講座を担当される木下俊也客員教授によるテープカットを行いました。



テープカット  
左より木下俊也客員教授、眞鍋敬薬学部長、近藤隆様、鬼頭宏学長、横倉輝男会長



記念撮影

## 新聞ランチin 草薙図書館

草薙図書館では前期・後期にそれぞれ4回程度、静岡新聞社とコラボレーションして「新聞ランチ」を開催しています。静岡新聞社の記者・編集者も参加し、取材に関わる裏話が聞けることもあります。新聞の気になる記事について意見交換をしながら、有意義なランチタイムを過ごしています。事前申し込みは不要です。お気軽にご参加ください。開催日程につきましては公式サイトでお知らせします。



新聞ランチの様子

## ■ 石川准 国際関係学部教授が国連障害者権利委員会副委員長に就任

国連欧州本部(スイス ジュネーブ)で開催された第21会期国連障害者権利委員会において、石川准 国際関係学部教授が同委員会の副委員長に就任することが決定しました。

今回の選挙では ダラミ・ウマル・バシャル(Danlami Umaru BASHARU)氏が委員長に、ジョナス・ルスカス(Jonas RUSKUS)氏、ローズマリ・ケイズ(Rosemary KAYESS)氏が石川教授とともに副委員長に、アマリア・エヴァ・ギャミオ(Amalia Eva GAMIO)氏が書

記に選出されました。

同委員会は障害者権利条約の各締結国から提出された報告書に基づいて各国の条約実施状況を審査し、改善勧告を出す役割を果たしており、石川教授は4年間の任期(2017年1月1日～2020年12月31日)で日本人初の委員を務めています。



会議の様子

## ■ 本庶佑顧問のノーベル生理学・医学賞受賞祝賀会を開催



謝辞を述べる本庶顧問

2017年4月まで静岡県公立大学法人理事長を、現在は顧問を務める本庶佑先生が、2018年ノーベル生理学・医学賞を受賞したことを祝して、2月26日、ホテルセンチュリー静岡において受賞祝賀会が開催されました。

発起人には川勝平太県知事をはじめとして尾池和夫理事長、鬼頭宏学長ほか7名が名を連ね、経済・医療・教育関係者など約220名の参加者が本庶顧問の輝かしい功績を祝おうと集まりました。

川勝知事からの本県の要職就任による多大なる貢献への感謝の辞に始まり、来賓からの祝辞の後、県民栄誉賞と記念

品が川勝知事より本庶顧問へ贈呈されました。

本庶顧問は、「県民栄誉賞の贈呈に心からお礼申し上げる。命を救われたと言われる機会が増え、自分としては最高の幸せである」と謝辞を述べました。

途中、本学の学生サークルのうち、アカペラサークル「The Vivaledge (ザ・ビバレッジ)」のなかから6人グループの『0:02(れいじにふん)』が登場し、素晴らしい音楽を2曲披露するとともに、薬学部3年の学生から「1年の時に話を聞いた本庶先生のノーベル賞受賞に刺激を受けた」との話もあり、会場は大いに盛



アカペラを披露する『0:02』の6人



ノーベル賞のメダルと賞状を展示

り上がりました。

閉会の挨拶にたった鬼頭学長は、当時理事長の本庶顧問に本学学長へ誘われた際のエピソードなどを語り、「今後も若者の育成に力添えいただきたい」という言葉で締めました。

会場にはノーベル賞のメダルと賞状も展示され、本庶顧問を敬愛する方々が集い、一緒に受賞を喜びあうことができた心温まる時間となりました。

## ■ 就職内定率 昨年より高い99.3%を達成

2019年3月卒業(修了)者の就職状況は、学部生の就職内定率は99.2%となりました。この数値は、全国の平均97.6%や、静岡県内大学の平均96.0%を大きく上回ります。

大学院修了者の就職内定率は100%となり、大学全体の就職内定率は99.3%でした。

### ●2019年3月卒業者の就職状況

	薬学部	食品栄養科学部	国際関係学部	経営情報学部	看護学部	学部計	大学院	合計
就職内定率	100%	100%	98.8%	99.0%	99.2%	99.2%	100%	99.3%
前年度	100%	100%	97.7%	100%	100%	99.2%	95.6%	98.7%

統計：キャリア支援センター

## ■ 2018年度 国家資格試験合格者状況

2018年度新卒者の国家資格試験の合格状況は、右の表のとおりとなりました。各試験において、毎年、高い合格率を保持しています。国家試験対策として、質の高い授業、模擬試験の実施やその結果を踏まえた教員による個別指導等、対策の強化を進めています。

薬剤師国家試験新卒合格率は、全国の大学別順位では5位となりました。管理栄養士国家試験新卒合格率および歯科衛生士国家試験新卒合格率は3年連続で100%を達成しました。また、2010年に大学院看護学研究科に助産師養成課程を設置以降、助産師国家試験新卒合格率は100%を継続しています。

### 2018年度 新卒者国家資格試験の合格状況

国家試験の名称	受験者	受験者数(名)	合格率(%)
薬剤師	薬学部	本学	80
	薬学科（6年）	全国平均	9,508
管理栄養士	食品栄養科学部	本学	28
	栄養生命科学科	全国平均	9,574
看護師	看護学部	本学	122
	看護学科	全国平均	58,308
保健師	看護学部	本学	117
	看護学科	全国平均	7,456
助産師	看護学研究科	本学	8
	実践看護学 助産学分野	全国平均	2,079
歯科衛生士	短期大学部	本学	39
	歯科衛生学科	全国平均*	7,207
介護福祉士	短期大学部	本学	46
	社会福祉学科 社会福祉専攻	全国平均*	94,610

\*歯科衛生士および介護福祉士の全国試験における新卒者の受験者数は公表されていないため、全国平均は総受験者数（既卒者含む）の数値となっています。

## 第33回 剣 祭

草薙  
キャンパス

10月26日(土)・27日(日)

●今年のテーマは「Sun Sun ～そこのあなたも笑いな祭」です。毎年恒例のお化け屋敷や各種ステージ企画のほか、クラブ・サークル等による模擬店、ライブ&イベントを開催します。また、本学の教育・研究を体験できる模擬授業や、ゼミ、研究室の一般開放も予定しています。

●TEL 054-264-5070(剣祭実行委員会)

●tsurugi@u-shizuoka-ken.ac.jp

●<https://tsurugi33rd.wixsite.com/tsurugisai-33rd>

## 第23回 橘花祭

小鹿  
キャンパス

11月9日(土)・10日(日)

●短期大学部の大学祭です。保育士・介護福祉士・歯科衛生士を目指す学生による展示や、クラブ・サークル等による模擬店、橘花祭実行委員会主催のイベントなどを行います。卒業生だけでなく一般のお客様もお待ちしております。ぜひお誘い合わせのうえお越しください。

●TEL 054-202-2603(学生室)

●<https://oshika.u-shizuoka-ken.ac.jp/>

## 経営情報学部の学生が地域課題解決に向けた活動成果を報告

経営情報学部上原克仁准教授のゼミ生が、2018年11月から2019年1月にかけて、子育てしながら働く女性に2日間同行するWork&Lifeインターンシップに参加し、地域課題解決のための政策提言に向け、就業に加え、子どもの送迎や帰宅後の食事の準備、洗濯、子どもの世話をいった家事、育児の疑似体験を行いました。

子育て中の女性社員におこなったヒアリング調査結果もふまえ、気付いたことや感じたことを、2月18日に静岡県男

女共同参画センター「あざれあ」で開催された静岡県主催の「女性活躍先進事例研究会」で報告しました。また、今回のインターンシップは4月12日の静岡新聞夕



Work&Lifeインターンシップに参加中の学生

刊「こちら女性編集室『こち女』」でも取り上げられ、将来の理想像や、就職活動における企業選びのポイントなど学生の意見も掲載されました。



報告を行う学生

## 本学×韓国忠清南道・公州大学校コラボ弁当



静岡県立大学×公州大学校のコラボ弁当

2018年12月、静岡県と韓国忠清南道の友好協定締結5周年を記念して、本学食品栄養科学部と公州大学校食品科学科（韓国忠清南道）の学生が「両県道の特産

品を使用した食育の効果の高い弁当づくり」をテーマに調理するワークショップを行いました。

その際に考案されたメニューを参考にした両大学のコラボ弁当が、2月20日から3日間、しづてつストアで販売されました。本学のレシピを参考に、かぼちゃ饅頭・ひじき入り卵焼き・なます・いりこ飯・カリカリ梅ごはんが、公州大学校のレシピを参考に、海苔のパリパリ揚げ・海鮮チヂミ・牛蒡の甘辛和え・ビーフミートボールがきれいに配置された弁

当となりました。両大学の交流が弁当という形で、地域の皆さんへ提供できたことは学生たちの大きな喜びとなりました。



ワークショップに参加した食品栄養科学部栄養生命科学科の学生と公州大学校食品科学科の学生

## 浙江大学中国語研修プログラム：現地で働く本学卒業生との懇談会を開催

本学では例年3月に、中国の浙江大学国際教育学院にて3週間の語学研修プログラムを実施しています。今年は国際関係学部・経営情報学部の学生5名が参加し、世界各国の留学生とともに中国語を学びました。

3月9日、中国で働く国際関係学部卒業生3名とプログラム参加学生、および浙江大学への長期留学中の国際関係学部生が懇談会を行いました。それぞれ異なる業界・業種で働く卒業生から、いろいろな視点で語られる中国での話に、学生たちは聞き入りました。その中で「言語だけで

はなく社会、文化、歴史や政治経済にも広く関心を持つことが現地の人々と協働するうえでは大切」といった自身の経験なくしては語れない話や、「海外に出る第一歩には勇気がいるが、二歩目からは楽



本学OBとの懇談会

になるのでどんどん踏み出してほしい」という激励もあり、学生たちはモチベーションを高めました。



浙江大学での集合写真

## ■ 静岡県公立大学法人 第3期中期計画が4月にスタート

静岡県公立大学法人では、地方独立行政法人法の規定に基づき、6年間の中期計画を策定し、教育・研究活動をはじめとする大学運営を計画的かつ効率的に

行っています。

このたび、第2期中期計画(2013～2018年度)が終了することに伴い、新たに第3期中期計画(2019～2024年度)を

策定し、引き続き、静岡県民をはじめ、広く支持され続ける魅力ある大学づくりに取り組んでいきます。第3期中期計画の主な内容は次のとおりです。

項目	中期計画の主な内容	
前文	<p>&lt;全学的な重点課題（三本柱）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学と人文社会科学が連携した異分野融合の教育・研究活動の展開</li> <li>・社会人や留学生など様々な学修者が生涯学び続けられるための環境の整備</li> <li>・グローバルな視点からの教育・研究環境整備、海外大学との交流展開、人材育成</li> </ul>	
教育研究等	<p><b>中期目標</b> 多様な人材が集まる大学づくり、時代の要請等に対応した教育を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路の多様化に資する様々なコースワーク（観光教育等）や履修体系の整備</li> <li>・各種国家試験等への対応（学生の学習の積極的な支援）</li> <li>・大学間連携によるインターネット遠隔教育の実施</li> <li>・看護学研究科博士後期課程設置への取組</li> <li>・教育力の向上に向けた取組（教育内容の検証、FD充実等）</li> <li>・就職希望者の就職率100%を目指したキャリア支援への取組</li> </ul>	
	<p><b>中期目標</b> 時代の要請や地域社会の要望の変化に対応した研究を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康長寿に資する学際的研究の推進</li> <li>・研究成果の蓄積・発信（研究シーズの情報発信・機関リポジトリの整備等）</li> <li>・外部資金の獲得・活用による研究水準の向上</li> </ul>	
	<p><b>中期目標</b> 積極的な地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内地域との連携協定に基づく観光等地域貢献活動の推進</li> <li>・県民への学習機会の提供（公開講座、社会人学習講座等）</li> <li>・地域社会のシンクタンクとしての提言活動（グローバル地域センター）</li> <li>・社会貢献活動への学生の取組支援（コミュニティフェローの育成）</li> </ul>	
	<p><b>中期目標</b> グローバル化（人材育成、大学の海外交流）を着実に推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生等の確保、海外留学派遣参加学生の確保</li> <li>・留学に関する教育体制・支援体制の強化</li> <li>・海外大学との新規交流協定締結への取組</li> <li>・国際的なシンポジウム、ワークショップ等の開催、海外研究者等の招へい</li> </ul>	
法人経営等	<p><b>中期目標</b> ガバナンスの強化、社会的責任</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の機能強化のため、IR機能の構築、他大学との連携・協働、教育研究組織や事務局体制の見直し（看護博士後期課程、国際交流センター設置等）</li> <li>・受託・共同研究や「おおぞら基金」等、自己収入の確保</li> <li>・長寿命化計画による施設整備・維持保全、ユニバーサル・デザイン配慮</li> <li>・様々な広報媒体を活用した学内外への積極的な情報発信</li> </ul>	



### 草薙キャンパスの敷地内全面禁煙

2019年4月1日から、草薙キャンパスは敷地内全面禁煙となりました。

（小鹿キャンパスは以前から全面禁煙）

皆様のご協力をお願い申し上げます。

## 「世界お茶まつり2019 春の祭典」見学ツアーを実施

5月10日から3日間、「世界お茶まつり2019 春の祭典」が、ふじのくに茶の都ミュージアム及び富士山静岡空港を会場として開催されたのに合わせ、本学「ふじのくに」みらい共育センターは、本学の学生に地元の魅力を学んでもらうために、初めての試みとして見学ツアーを5月11日に実施しました。

見学ツアー当日は、各学部生など35名が参加し、茶の文化や歴史をはじめとする静岡の魅力を学びました。

見学ツアー終了後にたくさん寄せられた学生の意見や感想の一部を紹介します。

○ふじのくに茶の都ミュージアムが本当に楽しかったです。展示は、見て、聞いて、嗅いで楽しめました。一階のお土産ショップでは、数えきれないほどの「お茶」が販売されていて、全部飲んでみたいくらいでした。すごく勉強になる施設なので、たくさんの人に来てほしいと思いました。

○静岡にお茶を広めるきっかけとなった歴史があって、偉人たちの功績によって、今の静岡茶があるのだと感じました。フジドリームエアラインズ(FDA)が、静岡と地方の空港を結び付けており、地方経済の活性化を図っていることがわかりました。



ネパール茶を試飲する学生



FDA支店長の説明を聞く学生

広告

# ASTY草薙

でワクワク、寄り道しよう。



LIFE & GIFT



PRONTO  
CAFFÈ & BAR 1988  
アスティ草薙店



RESTAURANT & CAFE



SHIZUOKA BANK



清水銀行



スルガ銀行  
SURUGA bank

ASTY

☎ 054-282-5896 (平日9:00~17:00受付)  
〒420-0851 静岡県静岡市葵区黒金町29番地  
<http://www.asty-shizuoka.co.jp/>

アスティ草薙

検索

※お酒は20歳になってから

# 研究室訪問 NO.18



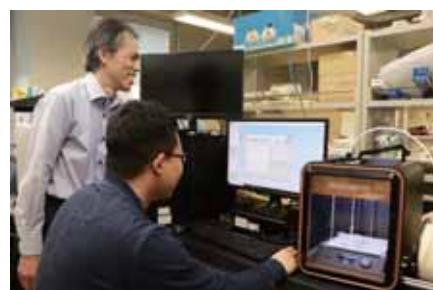
## 食品栄養科学部 食品工学研究室

下山田 真 教授

### 一先生の主要研究である「食品加工の高度化（高品質な食品加工技術の開発）」とはどのような研究ですか。

私たちが食べている食品の多くは、パンやお菓子や総菜など工場で作られた加工食品となっています。20世紀の後半から食品加工を科学的に改良するという動きが盛んになっていますが、食糧資源、エネルギー資源、人的資源を有効に活用するためにはこの動きを加速する必要があると考えています。私の専門から言いますと、実は飲むための豆乳と豆腐を作るための豆乳は作り方が違っています。それは豆腐への固まりやすさを優先するか、豆のお

いを抑えて飲みやすくすることを優先するかによって分かれています。さらに、豆乳が好きな人のための豆乳、初めて飲む人のための豆乳、豆腐ではなくてヨーグルトやチーズを作れる豆乳など使用目的によって豆乳に求められる性質はおのずと異なっているはずです。そうした目的ごとに最適化した加工方法を目指すということが今後重要なになってくると考えています。また食品工場では、省スペース、省エネルギーで効率的な食品加工が求められつつあります。こうした動きに対応して食品加工のプロセスを改善して持続可能な発展を目指すための研究も含んでいます。



### 一研究を行うなかでの喜びを教えてください。

研究を進める際にはおおよそ、作業仮説を立ててこういう実験をしたらこのような結果が得られるだろうと予想して実施します。大体は予想通りの結

果が得られてよかったねとなるか、予想に反した結果となり、検証したら仮説に間違いがあったり、測定方法の精度に問題があったりしてがっかりします。しかし、ときには想定していなかったデータが取れて、検証を重ねても間違いも問題も出てこないことがあります。みんなでディスカッションを進めると、いい意味で仮説が裏切れ、これまでの考えとは異なる新しいアイディアが浮かんでくることがあります。そのアイディアで実験データがうまく説明できるようになった時、そのようなときのワクワク感が研究の原動力かもしれません。

### 一学生の成長を感じるのはどのような時ですか。

一番感じるのは卒論発表会の時でしょうか。発表内容は直前までダメ出しして直してもらうのですが、こちらのリクエストに応えてくれて、みんな本番は立派に発表してくれます。ま

た、卒業した後に研究室に遊びに来てくれたり、学会などで顔を合わせたときに自分の仕事の内容を一生懸命説明

してくれる姿を見ると社会人になったんだなあと実感します。

## STUDENT VOICE

食品栄養科学部  
食品生命科学科4年  
**篠原 諒さん**



### 一研究室を志望した動機・配属決定した経緯等についてお聞かせください。

3年次の研究室配属までに受けてきた講義の中で、興味を持った分野は多々ありました。しかし、食品を取り扱う研究において有機化学的な視点で見るか、工学的に大きなスケールで反応を解明していくかの二手に分かれると考えました。自分の意思としては食品を利用したスケールの大きい研究をし、食品加工における理解を深めたいと思い、当研究室を志望しました。食品工学研究室では、豆乳、卵、アイスクリームを利用した研究を行っており、消費者にとって身近な食材を取り扱っているというところ

に、他の研究室よりも魅力を感じました。

### 一ご自身から見て感じる、研究室の魅力や、他の研究室にはない特徴として挙げられることがありましたらお答えください。

食品分野における乳化技術を利用したマヨネーズ、アイスクリーム、豆乳を用いて、食品加工の一部である乳化の状態をコントロールして、消費者にもメリットのある高品質であり、低価格な食品加工プロセス開発を行っています。また、当研究室では毎週セミナーが行われており、学生が自分自身のテーマに沿った論文紹介をして、活発な議論が行われています。

研究で困っていることがあれば気軽に学生同士や先生方に相談できるという、とても心温まる研究室もあります。

### 一ご自分が行なっている研究テーマについてお答えください。

私は「卵黄に含まれるHDLとLDLの乳化における関連性」について、卵黄の乳化特

食品栄養科学部  
食品生命科学科4年  
**澤野 桃子さん**



### 一研究室を志望した動機・配属決定した経緯等についてお聞かせください。

食品栄養科学部では学部3年時に、各研究室がもともと行う学生実習というものがあります。その学生実習を食品工学研究室で受けた際、先生方や先輩方のていねいな指導もあり、食品加工プロセスの研究という、他の研究室の研究分野とは少し違った色をもつこの研究室に初めて興味をもち、配属決定の際も志望しました。

先生や先輩方もとてもユニークで温かみのある方たちばかりで、毎日楽しい研究生生活を送っています。

### 一ご自分が行なっている研究テーマについてお答えください。

私たちが日々口にしている食品は全て「かたい」「やわらかい」「ねばねば」「さらさら」など様々な特性をもっています。このような特性は、同じ食品でも、製造工程の中で変化していくものもあり、工場ではそのような物性の制御が必要とされています。中でも複雑な流動特性をもつものとして現在、私たちはアイスクリームに注目し、その物性制御を可能にするための製造工程中におきる様々な現象の解明に取り組んでいます。

### 一ご自身から見て感じる、研究室の魅力や、他の研究室にはない特徴として挙げられることがありましたらお答えください。

食品工学研究室は、本学では唯一食品に工学的なアプローチをする研究を行っています。食品の生産工程を見直すことにより効率的な加工プロセスを可能にし、より低価格な食品の生産が行えます。また、実験では実際の食品を試料として扱えるところも他の研究室にない魅力のひとつです。

### 一将来の目標・希望進路をお聞かせください。

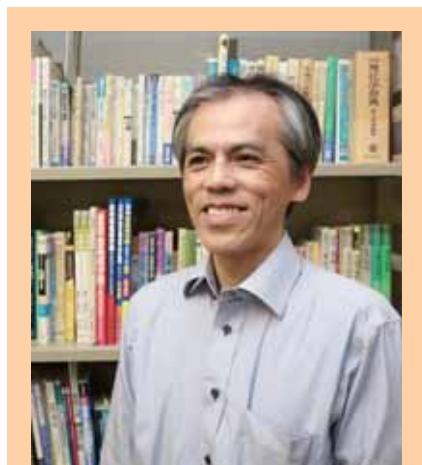
将来はここでの研究生活で得たことを実際に工場スケールに起こすことや、最新の加工プロセスを使って食品を開発するようなことをしたいと考えています。そのためにも、研究を通して知識をつけ、自分の専門性を高めていきたいです。



性を利用したマヨネーズをモデル食品として研究しています。現在、食品業界で冷凍技術が発展している中で、マヨネーズは冷凍後に加熱すると分離して安定しなくなるため、HDLやLDLの乳化特性を解明した上で、材料配合比を考慮した無添加で健康に良く安定したマヨネーズの開発に貢献したいと考えています。

### 一将来の目標・希望進路をお聞かせください。

日本の未来は少子高齢化が進むため、高齢者を中心とした消費者に健康的な食品を提供しなければならない時が来ます。その中で私たち学生が10年、20年後に負う責任は大きいと思われます。そこで私は、研究を行っていく中で様々な経験を重ねることにより、自分の食品分野における引き出しを増やすことで技量を高めていき、将来的ビジョンを描いていきたいと思っています。



しもやまだまこと  
**下山田 真** 教授 農学博士

1963年生まれ、宮城県出身。東北大学農学部を卒業後、同大学院修了。岐阜大学農学部 助教授、宮城大学食産業学部 教授を経て、2014年から本学へ就任。

## 食品工学研究室 教員2名 学生5名

<http://dfns.u-shizuoka-ken.ac.jp/labs/mfe/>



## 食品栄養科学部 環境工学研究室

原 清敬 准教授

### 一先生が取り組まれている研究について、また先生の研究が地域に果たす役割についてお聞かせください。

本研究室では、微生物を用いて機能性食品素材や飼料・肥料補助剤などの有用物質を生産させる研究を行っています。特に、微生物に与える資源（原料）とエネルギーの観点で研究を行っています。

資源については、食品加工残渣の利用を目指しています。静岡県は、食品加工産業が盛んであり、年間22万トンもの食品加工残渣が排出されています。燃焼によるCO<sub>2</sub>の排出など環境負荷というマイナスを感じるこれらの未利用再生可能資源を、微生物発酵の原料にすることで有用物質というプラスに転

換し、地域や世界への貢献を目指しています。

前職の神戸大学でも地元企業と協働で、同様の研究を行っていましたが、協働企業の多くは、特定の有用物質の生産企業であり、より安価な原料として未利用資源を使いたいという要望を持っていました。一方、静岡では未利用資源をもった企業の方がその価値化のために相談に来られます。我々の微生物利用技術を用いて、これらの企業を結びつけ、原料と有用物質を結びつけられればと考えています。

また、エネルギーの観点からは、微生物を改良して光エネルギーを利用可能にするという研究を行っています。光のエネルギーを用いて微生物発酵ができる、より効率的且つ、迅速に有用物質の生産ができると考えています。

いことをする微生物はたくさんいます。環境を浄化したり、発酵食品を作ったり、クスリを作ったり・・・小さな体に無限の可能性・・・それが微生物の魅力です。微生物の能力の多様性に魅了されたのが、現在の微生物利用研究のきっかけです。食品と環境と生物の共通点は「多様性」であり、どれも多様性がないと成り立ちません。微生物が快適に育ち、有用物質を気持ちよくつくる環境をどのように整えるか、元気にエネルギーを働いてもらうためには、微生物をどのように改良すればよいかについて、いつも考えています。

### 一研究室の日頃の様子を教えてください。

本研究室では、「のらりキラリ」をモットーに、あそびと研究のメリハリをもって両立しながら各自が自由に研究室ライフを楽しんでいます。実は「自由に」はもっとも難しいです。「のらり」しすぎると「クラリ」してしまうのと同様、自由にしすぎると自



### 一現在の研究を行おうと思われたきっかけは何ですか。

まず微生物が好きであること。これは、小学生の時にミジンコを観察したのがきっかけです。我々ヒトができる

分勝手になってしまいますからです。また、本研究室では、例えばサッカー好きな学生が入ればサッカー観戦や、釣り好きな学生が入れば釣り大会という自由なスタイルで親睦を深めています。

## STUDENT VOICE

食品栄養科学部  
環境生命科学科4年  
**佐藤 良樹さん**



### 一研究室を志望した動機、配属決定した経緯等についてお聞かせください。

本研究室を希望する大きなきっかけとなったのは、3年生の5月頃に行われたオープンラボです。私はそこで説明を受けた研究テーマの一つ「微生物を用いた有用物質の生産性の向上」に特に興味を持ちました。存在感はうすいけれども様々な場所で大きな役割を果たしている“微生物”的性質をより深く理解し、応用していくことが私達の生活を豊かにする第一歩に繋がるのではないかと考え、興味を持つきっかけになりました。環境工学研究室ではそういう微生物を使った応用に力を入れてお

り、そのための研究設備も充実していたため配属を強く希望するようになりました。

### 一ご自身から見て感じる、研究室の魅力や、他の研究室にはない特徴として挙げられることがありますならお答えください。

研究室の魅力はなんといってもやはり自由なところです！私を含めた研究室の学生が自由な空間の中で真剣に研究に取り組む光景は、この研究室ならではの特徴だと思います。

### 一ご自身が行われている研究テーマについてお答えください。

私は光を当てると活性化する微生物を持つ「ロドプシン」というタンパク質の活性を向上させる研究に取り組んでいます。ロドプシンの活性の向上に成功すれば、バイオテクノロジーにおける物質の生産性の向上に繋がります。運の要素も強く、別の研究室の方にも協力していただいている挑戦的なテーマです。だからこそ実験操作の細かいところまで気を配り、1つ1つの段階

薬食生命科学総合学府  
博士前期課程2年  
**八木 周和さん**



### 一研究室を志望した動機、配属決定した経緯等についてお聞かせください。

「微生物を利用したものづくり」が実践的であり、工業的利用に近いため、研究の価値を感じやすいという点で配属研究室を決めました。本研究室では有用物質を生産する事を目的としていますが、ただ単に生産することに留まらず、食品残渣など本来ゴミとなって環境に負荷を与えててしまうものから微生物の力を利用し有用物質を発酵生産する研究も行っています。環境に対してマイナスであるものをゼロに戻すだけでなく、プラスにまで押し上げる研究に将来性を感じ環境工学研究室を志望しました。

### 一ご自身から見て感じる、研究室の魅力や、他の研究室にはない特徴として挙げられることがありますならお答えください。

今後の進展が期待される、遺伝子操作等のバイオテクノロジーに触れることができる点は魅力的だと考えています。今やデータベースとして蓄積されている遺伝子やた

んぱく質の情報は膨大です。使い方次第でいくらでも価値を生み出すことができる、アイデアが武器になる点は非常に魅力的な分野だと考えています。また、私が提案するアイデアに、挑戦しろと背中を押してくれる環境は自分で考え動きたいと思う人に合っていると思います。

### 一ご自身が行われている研究テーマについてお答えください。

私は現在、有用物質の分離方法の開発を行っています。食品添加物や医薬品の生産の際には、様々な物質が必要です。しかし、最終的な製品中には、目的の有用物質以外の物質の混入は避けたいところです。そこで私は本研究室が生産する物質を、環境に負荷をかけずに分離する新しい方法について研究を行っています。

### 一将来の目標・希望進路がありましたらお答えください。

先ほども述べましたが、本研究室ではマイナスである廃棄物から有用物質の生産を行っております。そのためにもバイオテクノロジーを駆使して、捨てられていたすべてのものに価値を与え、地球全体として無駄のない物質循環を目指したいと考えています。



を確実にしていく必要があります。なかなか難しいところもありますが、試行錯誤の末に良い結果が出ると信じて頑張っています。

### 一将来の目標・希望進路がありましたらお答えください。

博士課程まで進学してさらに専門的な知識と経験を身に付けたいと考えています。近年ではゲノム編集や次世代シーケンサー、iPS細胞など革新的な技術が次々と誕生し、物凄い速さで科学の世界は進歩し続けています。もしかしたら数十年後には、現在の私達が到底思いつかないような、世の中の常識を変えてしまうほどの技術の誕生があるかもしれません。「日々進化し続ける科学の最先端で研究を行い、常に新たな発展・知識を求める進歩を遂げる。」そのような研究者になることが私の夢です。



はら きよたか  
**原 清敬** 準教授 理学博士

1974年生まれ、東京都三鷹市出身。東京工業大学生命理工学部を卒業後、同大学院修了。日本科学技術振興事業団 博士研究員、協和発酵工業株式会社 研究員、早稲田大学 特任研究助手、神戸大学 特命助教、特命准教授を経て、2015年から本学へ就任。

## 環境工学研究室 教員2名 学生7名

<http://sweb.u-shizuoka-ken.ac.jp/~env-bioeng/>

# 活躍する卒業生

The graduate who plays an active part



お名前 落合 剣人さん  
卒業 学部 経営情報学部経営情報学科  
(2013年 3月卒業)  
勤務先 島田市商工会

## Q1. 現在の仕事について教えてください。

商工会は会員事業所の経営のサポートや地域の賑わいづくりを行っています。経営のサポートでは、補助金申請の支援・経営上の課題解決・税務指導・労働保険事務代行・その他大小問わず会員事業所に寄り添って相談に対応しています。やりがいは、「商工会に相談して良かった」「悩みが解決した」と言ってもらえた時に感じます。また地域の賑わいづくりでは、管内のイベントの企画運

営を通じて地域愛着の創出を目指しています。

## Q2. 大学生活（ゼミやサークル）で印象に残っていること、今の仕事に影響を与えたことは何かありますか？

岩崎ゼミでマーケティングを学んだ事が仕事のベースとなっています。ゼミでは知識を学ぶ座学だけでなく、大コンやABC等の企業等と連携した実践的な学びがありました。実際に企業の課題をヒアリングし、共に考え解決策をプレゼンする経験ができました。その経験が現在の仕事において経営のサポートをする上での基盤となっています。商工会を知ったのもゼミのOBの先輩がゼミ内でお話しして頂いた事がきっかけだったため感謝しています。

立っている事が多いです。高校卒業後、就職を考えていましたが、県大に入り様々な経験をした事で人生が大きく好転したと思っています。

## Q4. 今後の目標について教えてください。

今後の目標は、より専門的な経営相談にも対応できるようにスキルアップをしていく事です。そのため現在、中小企業診断士の資格取得に向けて勉強をしています。学ぶだけでなく、会員事業所の悩みや課題に寄り添い、相談しやすい環境づくりを行いながら、信用・信頼を得て仕事ができるように人間性も磨いていきたいと思います。

## Q5. 在学生にメッセージをお願いします。

静岡県立大学は学ぶ場としても、仲間づくりの場としても最高の環境にあると思います。勉強でも、遊びでも、大学時代に経験できる事は自ら進んで挑戦して欲しいと思います。私は大学時代の経験のおかげで、今楽しく仕事をする事ができます。このご縁を大切に、今後も楽しく頑張っていきたいと思いますので、在学生の皆さんもご縁を大切にして楽しい大学生活を送ってください。



お名前 鍋田 真一さん  
卒業 学部 経営情報イノベーション研究科  
(2013年 3月修了)  
勤務先 城南静岡高等学校

## Q1. 現在の仕事について教えてください。

現在、高等学校教員として、普通科とICT科（商業系の学科）の両方で数学を教えています。授業以外にも、学年の業務や部活動の顧問などもしています。また、教務などの生徒からは見えづらい分掌もあります。日々の生徒の成長を見ることができること、そして自分自身も日々多くの学びがあることがやりがいです。そのため、夏休みなどの生徒があまりいない校内での仕事は胸に穴が空いたような感じです。

## Q2. 大学生活（ゼミやサークル）で印象に残っていること、今の仕事に影響を与えたことは何かありますか？

私が学部低年次から関わっていた研究室では、地元のサッカー大会における運営システムの開発・運用など複数のプロジェクトが進行していました。プロジェクトの参加だけではなく、それらを題材としたPBL（Problem / Project Based Learning）に関する研究も行っていました。その過程で、IT企業の社長やNPOの方々との交流、複数人の開発、論文執筆や学会発表といった貴重な経験が得られました。これらはすべて今の仕事に役立っています。

います。

## Q4. 今後の目標について教えてください。

多くの生徒と接する中で、毎日多くの出来事に直面します。また、2020年度の大学入試改革や2022年度入学の高校生より実施される次期学習指導要領など、ベースとなる高等学校教育にも大きな変化が起っています。まだ経験不足な点が多く、不安を感じたり悩んだりすることもあります。他の先生からアドバイスをいただきながら、「人格の完成を目指し」という教育基本法での理念を常に心がけた教育を行い、生徒とともに成長していきたいと考えています。

## Q5. 在学生にメッセージをお願いします。

今は制度的にできないかもしれません、当時は学部3年間で単位をたくさん取りました。多くの単位を取ることにより、多くの知識を得ることができます。また、大学生活は専門家と簡単にコミュニケーションが取れるいいチャンスです。好き嫌いせずに自分から積極的に行動しましょう。様々なことにチャレンジした結果、自分に合うところを取捨選択すれば良いのだと思います。



## 産学民官連携

本学が取り組む地域貢献、産学民官連携活動による研究成果やイベント等の情報をご紹介します。

### 「ハラールサイエンスの展望」を刊行



国際関係学部の富沢 壽勇 特任教授が、民谷栄一教授(大阪大学大学院工学研究科、バイオセンサー研究)との共同監修で『ハラールサイエンスの展望』をシーエムシー出版から刊行しました。

ハラールとはイスラーム教で「神によって許されたもの」を意味します。信者が飲食を許されたハラール食品について、現代科学技術を駆使してそのハラール性を科学的に立証するためにハラールサイエンスは展開してきました。

本書はハラールサイエンスと本格的に銘打った専門書としては国内外でも初の実験的試みであり、また本学がめざしている文理融合研究の一つの方向性を具体的に例示するものになっています。

株式会社シーエムシー出版  
<http://www.cmcbooks.co.jp>

体裁：B5 判、228 ページ  
ISBN コード：978-4-7813-1403-7

### 4月には国際ハラール会議を日本で初開催

4月22日～23日、同特任教授が会長を務める日本ハラールサイエンス学会(JAHAS)が、マレーシアのマラ工科大学、ブルネイのスルタン・シャリフ・アリ・イスラーム大学との共催で、第4回国際ハラール会議(INHAC 2019)を大阪(大阪大学中之島センター)で開催しました。同会議は2012年以降、3回にわたって東南アジアや中東で開催されてきましたが、日本で初開催となった第4回大会のテーマは「ハラールの持続可能性の向上(Enhancing Halal Sustainability)」でした。



#### INHAC 2019

<https://acis.uitm.edu.my/inhac2019/>

#### 日本ハラールサイエンス学会

<http://www.jaist.ac.jp/project/halalscience/>

### 木製メディカルキットの開発

短期大学部社会福祉学科の松平 千佳 准教授が、株式会社ウッディジョー、NPO 法人ホスピタル・プレイ協会と共同で木製メディカルキットを開発しました。

ベッドやキャビネットから、点滴台や MRI などの専門的な医療用品まで、全 7 種のキットがあり、子どもが組み立てて人形遊びなどをすることで医療体験の不安感を軽減することが目的です。

キットは木のぬくもりが感じられ、色をぬるなどしてオリジナルの作品に仕上げることが可能です。

#### HPS Japan Shop にて販売中

<https://hpsjapanshop.thebase.in>



## 多読の薦め、多読で「英語脳」をつくる

英語のままで理解し英語で考える。そんな『英語脳』をつくるには、多読が効果的です。コツは思いっきりやさしいものから少しづつレベルを上げていき、とにかく量を増やすことです。CD付の図書もあるので、聴き取りや発音の学習も同時にできます。

### 【英語多読の三原則】

①辞書を引かない 引かなくとも分かるレベルの本を選ぶ

②分からない所はとばす 分かる所を繋げて読む

③つまらなければ止める 面白い本を探す

草薙・小鹿両図書館には「多読図書コーナー」があり、実際に手に取って読むことができます。また、2016年1月よりサービスを開始した『電子ブック』にも、英語多読用図書が多くあり、図書館サイトを通して閲覧することができます。



## 私の一冊の本



著者：児島 将康  
出版社：羊土社  
請求記号：377.7//Ko 39  
ISBN：978-7581-2088-3

本書のタイトルにある「科研費」は、文部科学省および独立行政法人日本学術振興会が行っている、人文学、社会科学から自然科学までの分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる学術研究（大学等の研究者の自由な発想に基づく研究）を対象とした競争的資金（研究費）のことです。科研費の獲得は、研究者が独自の研究を継続していくための重要な手段です。2018年度科研費から、制度が大きく改革されました。本書は科研費

紹介者 薬学部 准教授 高橋忠伸  
紹介図書 「科研費獲得の方法とコツ」

の新制度についてよく知りたい方に適しています。本書は将来、大学などのアカデミックの研究者をめざしている学生や若手研究者に、科研費の概要から申請方法までを教えてくれます。

科研費は申請した4～5人のうち1人しか獲得できません。科研費を獲得するためには申請書を書き、専門分野の近い複数の研究者による審査で高く評価してもらうことが必要です。審査員の多くは大学教員などで、教育、研究、大学運営など多忙な業務に追われています。そのような状況で審査員は多数の申請書を短時間に審査しなくてはならず、専門分野が近いと言っても研究の意義や内容はなかなか理解しづらいものです。たとえ画期的な内容であっても案外認めてもらえないかもしれません。ですから自分の研究の内容、計画、意義を淡々と書き連ねた申請書では、他人にはポイントを理解してもらえず、科研費の獲得は難しいことが多いのです。本書では、審査員経験のある筆者がどのような申請書がよいのか、何を書いたらよいか、どのよ

うに評価されるのかについてアドバイスしています。申請書をどのように作成したらよいのか全く分からぬ若手研究者にはうれしい指南書です。

本書は申請書の実例を悪い例と良い例に分けて比較し、改良のポイントを分かりやすく示しています。「悪い例」を工夫するだけで、同じ内容でこんなにも分かりやすい「良い例」になるのかと驚かされます。学生を含む多くの方々が日常あるいはビジネスで、たとえばレポートや報告書、配布資料など人へ伝える文書を書かれているはずです。本書で書かれたコツは、他人が見やすく、短い時間でポイントを理解しやすい文書を書くために、研究者以外の方にも利用できるのではないかと思う。

本書の277ページのうち「コツ」に関する内容は100ページ程度で、科研費の制度を読み飛ばせば数時間で読み終えることができます。科研費を申請する研究者だけに限らず、多くの学生に読んでいただきたいです。

## 教員・学生の受賞

各受賞の詳細については本学公式サイトのニュース&amp;トピックスからご覧いただけます。

	受賞者名	所 属	受 賞 名
教 員	海野 けい子 准教授	薬学部	O-CHAパイオニア賞 学術研究大賞
	増田 勇人 助教	食品栄養科学部	化学工学会 粒子・流体プロセス部会フロンティア賞
	新堂 真生・柴崎 祐希	食品栄養科学部	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア (A&S) 2018 最優秀ポスター賞
	福田 哲也	薬食生命科学総合学府	
	景山 裕也・中村 龍二 三輪 春樹・野木 菜々子 宮崎 淳平・松山 南	食品栄養科学部	富士山麓アカデミック & サイエンスフェア (A&S) 2018 優秀ポスター賞
学 生	飯田 みかり・鈴木 陽仁 水間 典子・山田 しおり	経営情報学部	第17回しずおかビジネスプランコンテスト アイデア賞
	土屋 さくら・平松 希望	食品栄養科学部	第20回静岡ライフサイエンスシンポジウム 優秀ポスター賞
	清 真純	国際関係学部	第28回(2018年度) 小泉八雲顕彰文芸作品コンクール 一般の部 最優秀賞
	菊地原 優花	国際関係学部	第28回(2018年度) 小泉八雲顕彰文芸作品コンクール 一般の部 優秀賞
	加藤 志穂	国際関係学部	第28回(2018年度) 小泉八雲顕彰文芸作品コンクール 一般の部 奨励賞
	宮崎 淳平	食品栄養科学部	第53回日本水環境学会年会 年会ポスター発表賞(ライオン賞)
	黒川 亜美	薬食生命科学総合学府	
	濱本 伸吾	薬学部	第34回茶学術研究会講演会 奨励賞
	松本 昌浩	薬食生命科学総合学府	化学工学会第84年会 優秀学生賞
	池田 誌花	食品栄養科学部	日本農業気象学会2019年全国大会 優秀ポスター賞
	加藤 花蓮	国際関係学部	第4回フランス語スピーチコンクール静岡 最優秀賞

※2019年1月から6月末までに本学の公式ホームページに掲載依頼のあった受賞を掲載しています。  
※役職は受賞時のものです。

## 教員人事

## ◆採用 2019年4月1日付

木村 俊秀	薬学部薬学科	准教授
大澤 隆志	薬学部薬学科	講 師
杉山 栄二	薬学部薬学科	助 教
山下 賢二	薬学部薬学科	助 教
永井 大介	食品栄養科学部環境生命科学科	准教授
本同 宏成	食品栄養科学部食品生命科学科	准教授
串田 修	食品栄養科学部栄養生命科学科	講 師
菊川 寛史	食品栄養科学部環境生命科学科	助 教
古川 光明	国際関係学部国際関係学科	教 授
塩崎 悠輝	国際関係学部国際言語文化学科	准教授
浜由樹子	大学院国際関係学研究科	准教授
大久保 あかね	経営情報学部経営情報学科	教 授
八木 健祥	経営情報学部経営情報学科	教 授
アメー・カカルアムアン	経営情報学部経営情報学科	准教授
加藤 京里	看護学部看護学科	講 師
永谷 実穂	看護学部看護学科	講 師
大和田 裕美	看護学部看護学科	助 教
高橋 啓介	看護学部看護学科	助 教

## ●特任教員

宋 復燃	薬学部薬学科	特任教員
富沢 壽勇	国際関係学部国際関係学科	特任教授
渡邊 順子	看護学部看護学科	特任教授
鴨川 仁	グローバル地域センター	特任准教授
バリース・キンセラ	言語コミュニケーション研究センター	特任講師

## ●教員昇任

平井 啓太	薬学部薬学科	講 師
澤崎 宏一	国際関係学部国際言語文化学科	教 授
佐藤 真千子	国際関係学部国際関係学科	准教授
大久保 誠也	経営情報学部経営情報学科	准教授
田中 悠美	看護学部看護学科	講 師

## ●専任教員

加藤 俊枝	看護学部看護学科	助 教
高田 佳輔	短期大学部一般教育	講 師
鈴木 桂子	短期大学部歯科衛生学科	助 教

## ◆退職

## ●専任教員

2019年3月31日

石井 康子	薬学部	講 師
海野 けい子	薬学部	准教授
一ノ瀬 祥一	食品栄養科学部	准教授
坂田 昌弘	食品栄養科学部	教 授
下位 香代子	食品栄養科学部	教 授
梅本 哲也	国際関係学部	教 授
富沢 壽勇	国際関係学部	教 授
大平 純彦	経営情報学部	准教授
渡邊 順子	看護学部	教 授
館山 光一	一般教育	准教授
野嶋 秀子	一般教育	講 師

## ●定年退職

今福 恵子	看護学部	講 師
酒井 知子	看護学部	助 教
川戸 勇士	薬学部	助 教
今磯 純子	看護学部	准教授
中野 恵美子	歯科衛生学科	講 師
海老名 和子	歯科衛生学科	講 師

## はばたき

139号 2019年7月16日発行  
発行元／静岡県立大学広報委員会

- 静岡県立大学 教育研究推進部広報・企画室
- 〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1
- TEL／054-264-5130 ■ FAX／054-264-5099
- E-mail／koho@u-shizuoka-ken.ac.jp
- URL https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/

## ご意見・情報を寄せください。

記事に関するご意見・ご感想、今後取り上げてほしいテーマなど、ご要望をお待ちしています。また、本学の学生、教職員の教育・研究活動のほか、ご卒業生などに関連する情報もお寄せください。今後の企画の参考にさせていただきます。



広告

**「はばたき」読者限定!**

# 県大生応援キャンペーン!!

（お申込時にこの冊子をご持参下さい）

**9月末までにご入校の方に  
TDLパスポートが  
ペアでもらえる！**

※普通自動車で入校の方が対象です  
※限定解除の方は対象外とさせていただきます

お申込みは  
フリーダイヤル **0120-155-168** | 携帯からでもOK  
※チラシを見たとお伝えください。

**公認 古庄自動車学校**

〒420-0812 静岡市葵区古庄3丁目11番15号  
TEL.054-261-1551  
FAX.054-264-0940  
URL <http://www.flushyou.co.jp>  
Mail [main@flushyou.co.jp](mailto:main@flushyou.co.jp)

地図には、古庄自動車学校、静岡駅、国道1号線、至長沼大橋、至清水、至静岡駅、オートバックス、ローソン、マックスバリュ、ネットヨタ、静浜、静岡銀行、レザーブラザーズ、ヤマダ電機、ガスト等の位置が示されています。

**古庄は  
特典がいっぱい**

優先予約で短期取得可

再検定料一切不要

技能オーバー無制限保証

夜間料金無料

免許は取ったけどしばらく乗ってないから運転が不安で…

**卒業生特典  
ペーパードライバー講習  
1時間無料**

※普通車のみ：2・3・8月を除く

■発行日／2019年7月16日

■発行／静岡県立大学 広報委員会

**卒業式袴レンタルの専門店**

毎年恒例

学校内（草薙校舎）で、式当日お支度！学内展示会も開催！

**静岡県立大学** 大学・大学院 **をご卒業予定の皆様**

**check 1 「式当日、とても便利」**

**着付・ヘア・写真会場：学校内  
衣裳返却・着替え：学校内  
送迎有り：学校↔グランシップ**  
※学校手配の送迎バスをご利用下さい。

**check 2 「県大内で予約できる」**

**学校内（草薙校舎）展示予約会**  
場所：上食堂 1階ラウンジ  
時間：11時～17時※16時半最終入場  
日にち：2019年  

- 10月08日（火）09日（水）
- 11月11日（月）12日（火）
- グランシップでも7/19・26、10月、12月に展示会開催！
- 詳細は、カタログ（売店に設置）か当社HPをご覧下さい。

**check 3 「その他」**

- 短大生は当社ホームページをご覧下さい。
- 看護学部は、授与式の場所により、お支度場所が変更となることがあります。  
※詳しくは、当社ホームページをご覧下さい。  
「大人気レトロモダン、正統派、高品質～リーズナブル、品数に自信があります！」

**京都むらまつ** お店でも  
予約OK！

場所：静岡市葵区馬場町 25-2  
(静岡浅間通り商店街)  
電話：0120-144081 (フリーダイヤル)  
054-252-5293 (代表)  
営業：9時半～17時  
(水曜定休、お盆・正月休み有)

<https://www.kyoto-muramatsu.jp>

HP検索 京都むらまつ